

ふれあいの赤いエプロンプロジェクトが 食生活改善推進員の活動にもたらした効果

第三者評価による報告 I



○ 黒田藍¹⁾²⁾ 木下ゆり²⁾³⁾ 伊東尚美²⁾⁴⁾ 佐藤香菜子²⁾⁵⁾ 久地井寿哉²⁾ 福田吉治¹⁾²⁾

1) 帝京大学大学院公衆衛生学研究科

2) ふれあいの赤いエプロンプロジェクト評価チーム

3) 東北生活文化大学短期大学部

4) 福島県立医科大学医学部

5) 中京学院大学短期大学部

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業は以下のとおりです。

木下ゆり・福田吉治 過去1年間を通じて

<受託研究> 公益財団法人味の素ファンデーション

背景

公益財団法人 味の素ファンデーション(The Ajinomoto Foundation : TAF)は、東日本大震災後、東北3県で復興応援事業「**ふれあいの赤いエプロンプロジェクト**」を実施。

事業目的	①被災者の食生活と栄養状態の改善 ②災害で破壊された地域コミュニティの再生・活性化への貢献を通じた復興応援
事業内容	各地域のパートナー団体(行政、社会福祉協議会、自治会等)と連携した取組 アウトリーチ型「料理教室」
テーマ	いっしょに作って、いっしょに食べよう

<活動実績> 開催回数:延**3,771**回 / 参加者数:延**54,434**名

食をテーマにした8年半にわたる被災地支援の活動として他に類のない活動。

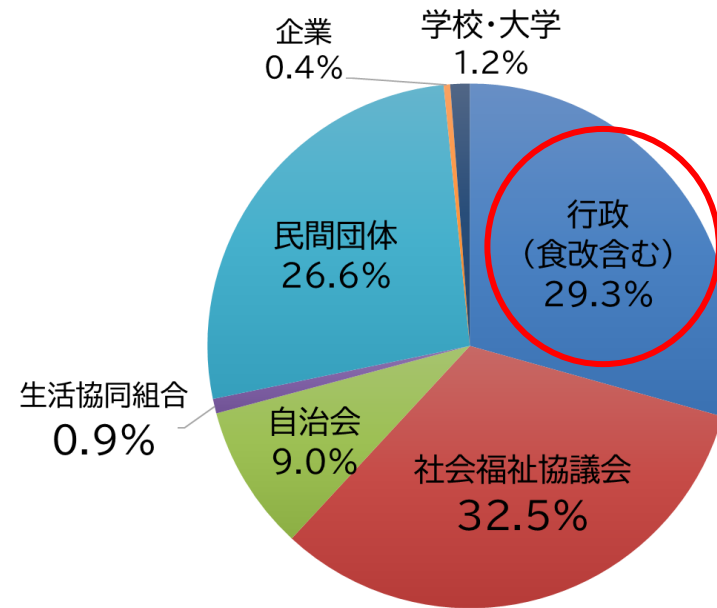
本報告の目的

食生活改善推進員協議会(食改)をパートナー団体として実施した活動内容
と効果について報告する。

【参考】

連携をしたパートナー団体
全**235**団体

図1: パートナー団体割合



【報告の特徴】

パートナー団体・TAF・第三者評価チームによるアクションリサーチの一環として実施

ふれあいの赤いエプロンプロジェクト アクションリサーチ関係図



料理教室参加者
(地域住民)



サポート



パートナー団体

連携したプロジェクトの
実施



コンテンツの提供



公益財団法人
味の素ファンデーション

プロジェクトを一緒に実施・評価しながら、
効果や課題を共有し、
より良い活動展開・水平展開につなげていく
～関係者がそれぞれエンパワメントされる関係～

評価のフィードバック
活動への学術的サポート
活動への参加

取組等の情報提供



評価チーム(研究者)

評価のフィードバック
プロジェクトへの
学術的サポート

プロジェクトの
情報提供

方法

TAFの活動記録(2012年4月～2020年3月)より
食改をパートナー団体とする活動を抽出

➡ 抽出された7団体のうち、TAFとパートナー団体への聞き取りを実施した**4団体**
について、活動経緯・役割分担・効果を各団体の協力を得ながらまとめた。

【分析に用いた資料】

- ①2012年4月～2020年3月までのTAFの活動記録
- ②パートナーへのアンケート
- ③パートナーへのインタビュー内容(参考)
- ④公的機関が開示している資料(参考)

【倫理的配慮】

TAFとパートナー団体への聞き取り、及びアンケートは、2019年～2021年に帝京大学がTAFからの委託を受けてプロジェクト評価の一環として実施した。データの二次利用については、東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部研究倫理委員会の承認を得た。

対象とした4団体について

都道府県名	パートナー団体名
岩手県	陸前高田市・食生活活動推進協議会
宮城県	南三陸町・食生活改善推進協議会
	亶理町・食生活改善推進協議会
福島県	広野町・食生活改善推進協議会

いずれも震災前より行政のヘルス部門と連携を図りながら、食生活の改善や食育に関する活動を行っていた。

活動の経緯

東日本大震災後、津波や原発事故により
住民※1が避難所・仮設住宅へ避難

※1 食改の構成メンバーである、食生活改善推進員(以下、推進員)も含む



住民側の課題

- ①避難生活による孤立化
- ②仮設住宅での不十分な調理環境
- ③食への意識の低下

～震災後の食改の活動～

長期化する避難生活による影響も含めた
食生活の改善と**コミュニティづくり**を
目的に活動再開



食改の活動再開上の課題

- ①避難先の調理環境が整わない
- ②推進員自体も被災者となりメンバーが
集まらない
- ③活動の展開方法が見えない

食改自体の活動体制の構築と活動を推進するための方策が必要だった

活動内容と活動をする上での役割分担

【活動内容】

- ◆ 被災者を対象とした料理教室

【パートナー団体とTAFの役割分担】

- ◆ TAFは、各行政を通じて食改との活動を開始した。

パートナー団体	TAF
場所の確保・参加者の募集	食材の確保・レシピの提供 調理器具の提供・衛生管理

- ◆ 役割については、上記に限らずパートナー団体とTAFの話し合いを行い、パートナー団体の特性に合わせて対応していた。

例) 郷土料理をレシピに取り入れる・パートナー団体が講師を実施するなど

食改活動への効果

食改の活動再開上の課題

- ・避難先の調理環境が整わない
- ・活動の展開方法が見えない

【食改活動への効果①】

推進員の活動再開への意識の向上

【食改活動への効果②】

- ・積極的な料理教室の開催
- ・新たな推進員の獲得

調理器具やレシピの提供など

TAFによる環境的支援

被災者である推進員をエンパワメント

(心の栄養・心の復興:心理的支援につながっていた)

【住民への効果】

料理教室参加者の



・孤立予防・つながりづくり

・食生活の改善 (食事バランス・減塩等)

対象とした4団体について(まとめ)

活動目的と背景				役割分担											活動の効果											
活動目的(開始当初)		活動の背景				パートナーの役割					TAFの役割						活動の効果									
住民同士の つながり	男性の孤立予防	食生活の改善	食改活動の推進	孤立化	避難先でのコミュニ ティ再生	食生活の課題	避難先での 調理環境の課題	食改活動の 体制構築	場所の確保	チラシの作成	参加者への 呼びかけ	機材の準備	食材の準備	レシピ	教室の講師	食材の準備	機材の提供	レシピの提供	教室の講師	衛生管理	コミュニティーの構 築・再生	社会参加の 機会の創出	食への意識の 変化	パートナ ー団体の活 動の活性化	参加者の 心身の回復	被災者と 地元住民の交流
陸前高田市 食生活改善推進員協議会	○	◎	○			○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
南三陸町 食生活改善推進員協議会	○		◎	◎		○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	
巨理町 食生活改善推進員協議会	○		◎	◎		○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	
広野町 食生活改善推進員協議会	○	◎	◎	○	○	○			○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	◎	

共通した活動目的に対し、役割分担においては柔軟性があった。

活動の効果として、パートナー団体の活動の活性化と推進員も含めた参加者の心身の回復がみられた。

被災後の食生活の改善のための取組

陸前高田市食生活
改善推進員協議会(食改)

陸前高田市保健課

Point 住民の食生活改善のための取組みが、
食生活改善推進員協議会の再組織化につながった



パートナー	食改・行政	場所	仮設住宅→コミュニティセンター・公民館	内容	被災者を対象とした料理教室
-------	-------	----	---------------------	----	---------------

活動の背景

東日本大震災後、仮設住宅入居者は調理スペースの狭さや食材調達等、以前と大きく異なった食環境による調理意欲の低下や食事の簡素化が見られ、栄養バランスの悪化から生活習慣病の増加が懸念された。
地域とのつながりが深く、実情を良く知る推進員が中心となって活動を行うことが必要とされた。

直接支援期間

2013年4月～2020年2月



活動経過

	活動内容	活動場所
2011年	食生活改善推進員の再組織化に向けた取組み	
2013年	料理教室開始	仮設住宅集会所・公民館
2014年～	↓ *徐々に仮設住宅入居者以外の住民へ声掛け	コミュニティセンター・公民館 *コミュニティセンターや公民館の開設及び仮設住宅の集約化に伴い、徐々に活動場所を移行
2020年2月	直接支援終了:自主開催へ	

活動目的

被災後の食生活の改善

役割分担

パートナーの役割	TAFの役割
参加者への呼びかけ チラシ作成、会場の確保	レシピ・食材・機材の提供 教室の講師役、衛生管理

活動の 効果

- ・料理教室を通して、料理をしながら住民同士の交流だけでなく、調理意欲やバランスの良い食事に対する意識についてプラスの変化が見られた。
- ・仮設住宅住居者のコミュニティ形成や、周辺地域住民との交流にもつながった。
- ・TAFのサポートにより調理実習を行う環境が整っていない場所も含め様々な地域で料理教室を実施できるようになったことで、再結成して間もない推進員が積極的に地域で活動を展開していくきっかけとなった。

考察

◆ 食改がパートナー団体となった背景

→ **食生活の改善**と**コミュニティづくり**という共通の活動目的

◆ 食改の活動上の課題点をTAFが補完することで活動を後押しし、活動展開に寄与

従来の食改の活動：地区組織活動

- 仲間とのふれあいを通して地域ぐるみのより良い食習慣づくり
- 活動を通じて地域や人と人とのつながりを広める



本プロジェクトを被災地以外での食改活動に水平展開することで、
より効果的な活動が広がることが期待される



謝 辞



本報告を行うにあたり、事例のまとめに一緒に取り組んでいただいた4団体の食生活改善推進員協議会の皆様、各自治体の担当職員の皆様に
こころより感謝申し上げます。

*なお、4団体の事例については、企業展示「公益財団法人味の素ファンデーション」の
ブースにて紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

～ご清聴ありがとうございました～

いっしょに作って、いっしょに食べよう!

ふれあいの
赤いエプロン
プロジェクト